

(大阪府)

行政と市民の課題共有で築く 「市民が起点」のまちづくり

「市民が協働を学び合う 「まちづくり大学」

「市長として私が考える、わが市の最大の自慢は、狭山池の存在と多彩な市民活動です」
今回の取材に当たり、実施させていただいた約1時間のインタビューの最後に、吉田友好・大阪狭山市長はごく自然な口調でそう明言した。大阪狭山市が世界文化遺産の登録をも目指す、日本最古(7世紀初頭に完成)の「ダム式ため池」である狭山池については、後に詳しく説明するとして……。これまで数多くの市長さんに「わが市の自慢」をうかがってきたが、「市民活動が最大の自慢」と答えられた方は珍しく、非常に強い印象を覚えた。
約30年間にわたる市職員の経験を経て、平成15年に市長就任した当時から10年目(3期目)の現在に至るまで、吉田市長が掲げ続けてきた最大のスローガンは常に「市民が起点

のまちづくり」だった。それは一言で表現すれば、ここ2〜3年よくいわれる「新しい公共」の概念を先取りした考え方だ。

吉田市長が現在、自信を持って「市民活動がわが市の自慢」といえるのは、市役所(行政)ととも、大阪狭山市の市民・NPO・任意団体・事業者などさまざまな立場の「民」の人々が、公共的なサービスの提供主体としての自覚(強い協働意識)を持ち、それにふさわしい自主的活動を始めているという強い手応えがあるからだ。

その傾向が顕著になり始めたきっかけは、平成19年度から開始した「まちづくり大学」にあるという。市長就任以来、「正直なところ、1期目は行財政改革に没頭して、自分が本来やりたいことは、何もできなかった」と吉田市長は振り返る。2期目ようやく実施できたのが、「市民が起点のまちづくり」を具体的に進めるための「土壌」としての「まちづくり大学」の設立(6月から年末まで毎週土曜日実

施。90分授業で平均25講座。現在8期目)だった。

まちづくり大学は「市民が起点のまちづくり」の担い手である市民を対象に、市が行っている事業の仕組みや市役所の現状をまず知ってもらい、市が現在抱えている課題を市民と行政が共有するための学びの場だ。もともとは生涯学習の出前講座制度の一環として、同様の趣旨で行っている事業を拡充し、市政に関するより

体系的かつ本格的な講座にリニューアルしたものと見える。

講師は基本的に市の現役課長が行う。まちづくり大学を管理運営するのは市民団体(NPO法人大阪狭山アクティブエイジング)。この団体が市民活動支援センターの主体となり、市からの補助事業として、まちづくり大学の運営もする。まちづくり大学を設置するに当たり、それまで市の嘱託職員等が市民活動のサポート業務を行っていた市民活動支援

センターの在り方をも改め、まちづくり活動を実践している有意の市民団体に、センターの事実上の指定管理および、まちづくり大学の管理運営も委ねたのだ。

これについて吉田市長は、「市民に協働のまちづくりの担い手になっていただくためには、その土壌づくりである『まちづくり大学』の管理運営も官主導でない方がいい。やはりすべて市民にやっていただくべきだと考えたからです」と明確だ。

「まちづくり大学」から 「まちづくり円卓会議」へ

市民団体と職員が協働で考える各期平均25回に及ぶ講座の内容は多彩だ。具体的には市民活動、行財政改革、財政、都市計画、市民自治、防災・防犯、議会、ごみ処理、福祉、子育て・教育、下水道、公園と道路などの各テーマだが、大阪狭山市の実際の行政の「現状と課題」を徹底的に教材化しているところが非常に特徴的だ。

自分たちが暮らすまちの行政について市民が深く学ぶスタイルではあるが、「それ以上に、講師としてそれを分かりやすく説明しな



市民の憩いの場であると同時に、貴重な生物相を残す自然の宝庫でもある、日本最古のダム式ため池・狭山池



毎年4月下旬に盛大に開催される「狭山池まつり」で繰り広げられる多彩なイベント



毎月1回、市民と府・市職員が自主的に大挙して参加する狭山池の清掃

(大阪府)



大勢の地域住民が集う南中円卓会議の交流サロン「カフェみらい」



ければならない各グループの課長には、非常に大きな勉強になる」と吉田市長は言う。実際、講座の後には必要に応じて反省会が開かれ、役所内でしか通用しない用語を使ったり、分かりにくい説明を課長が行ったりすると、管理運営の市民からダメ出しされることもしばしばあるようだ。

まちづくり大学は身近な地域行政の課題をテーマに官民双方が切磋琢磨する場でもあるのだ。その場で得た知識や情報は受講した市民の間に浸透していき、自治会活動や団体活動を通じてさらに別の市民にも伝わる。講師役の課長からは一般職員にフィードバックさ

活性化に活用していただきたい。それが『まちづくり円卓会議』設置の大きな目的です』（吉田市長）

まちづくり円卓会議の設置単位を小学校区（7校区）でなく中学校区（3校区）としたのは、大阪狭山市の比較的小さな市域（約12km²、人口約5万8000人）をさらに細分化し過ぎないためだ。中学校区だと1校区に自治会が平均20ほど含まれる。ここ40年来、ベッドタウンとして発展してきた大阪狭山市の市域と、外部から引越してきた人々が住宅街を次々形成していった地域が比較的画然と分けられるため、自治会の性格も構成住民の年齢構成も多様だ。小学校区で分けるとその違いが出過ぎ、さまざまな立場の市民を集める円卓会議の趣旨が損なわれかねない。そこに中学校区の意味がある。

官民の意識改革とともに進めた行財政改革

「まちづくり大学の実施などを通して、市民の市政への関心の高まりにある程度の手応えを感じていた」吉田市長だが、市民主導を最大の眼目とするなど、地域協議会の概念をさらに進めたまちづくり円卓会議を組織するに当たっては、当初、難航を予測したという。

しかし、平成20年度中にまず1つの中学校区（南中学校区）を設置した後、翌21年度中に

人の市民が受講し、206人が修了証を手にした。面白いのは修了証を手にした「市民」の中に、市民として参加した何人かの市議会議員や市の若手職員も含まれることだ。議員にとっても若手職員にとっても、まちづくり大学は、吉田市長が実践する現在の大阪狭山市政について学び合うための格好の場になっていることが分かる。

平成20年度から始まった中学校区単位の「まちづくり円卓会議」は、全国各地で行われている地域（地区）協議会と同様の位置付けにあるといえる。地域の人々がまちづくりの企画を考え、それが認められれば一定の予算（大阪狭山市の場合はソフト事業で上限500万円）を地域の人々が独自に運用することができるといえる。

地域協議会の活動を内閣府が近年打ち出した「新しい公共」の概念にのっとり、さまざまな立場の市民（自治会、NPO、各種任意団体等）や事業者などが参加するという意味合いで「円卓会議」の名称を使うようになった

れ、市民の意見やニーズが市役所内に浸透していくことにもなる。

まちづくり大学は昨年末まで（1期）7期に計252

自治体は現在急増しつつある。しかし、大阪狭山市は中でも早期に着手したことに加え、そのベースに「まちづくり大学」という実績のある意味は大きい。「まちづくり円卓会議を設置する際には、自治会や、任意団体、NPOなどへ声を掛け、まちづくり大学のOB・OGが組織する『まちづくり研究会』の方たちにも声を掛けました。まちづくり研究会の皆さんは地域の行政課題を熟知しており、市民が起点となった地域振興や活性化という考え方にかなり慣れておられるからです」（吉田市長）

まちづくり研究会には教育や福祉、環境など主に取り組むテーマ別に5つの分科会があり、まちづくり大学で学んだ基礎知識をベースに、多彩かつ自主的にまちづくり活動や勉強を行っている。昨年度から小学校で必須授業となった英語の時間の講師は、分科会の一つがNPO法人化した団体のメンバー（大学や中学校の元英語教師、国際線元CAなど）が担当するほど、その質も活動内容のレベルも高い。

「そういった方たちにはここ30年、40年の間に市内のニュータウンなどに引越してこられ、定年退職後も暮らしておられる方たちが多いという傾向があります。昔からの地縁を地域に持つ自治会の会員の方たちをベースにしながらも、さまざまな職業経験を持って外部から来られた方たちの積極性を起爆剤とし、さまざまな立場の方たちの英知を地域の

は2つ目の中学校区（第三中学校区）、22年度

には3つ目の中学校区（狭山中学校区）にまちづくり円卓会議が設置されるなど、順調に推移している。現在では各中学校区でオリジナルの「円卓会議ニュース」が発行されるなど、非常に活発な活動が行われている。最初に誕生した南中学校区の広報紙「南中円卓会議ニュース」（年4回発行）の最新号を見ると、24年度の活動方針として「人と人とのふれあい」「安全安心のまちづくり」「住み良いまちづくり」への取り組みがクローズアップされ、24年度の事業予算の内訳（約360万円）、市担当者（各中学校区には市の担当職員が1人ずついる）との意見交換会の様子、自治会交流会の模様、各部会（防犯・防災、環境、福祉・青少年健全育成、地域コミュニティなど）の活動の模様のほか、地域のニュース、地域に立地する狭山ニュータウンの人口動態への考察記事など、実に多彩だ。地域の人々がまちづくり活動を楽しみながら

行い、さまざまな活発なことがうかがわれる。また、まちづくり大学の受講生は圧倒的に高齢者と女性が多かったが、円卓会議には働き盛り世代の参加も少なくない。いろいろな意味で、まさに狙



近年まで使われていた取水塔と中世に改修された際に埋められた樋（狭山池博物館）



い通りの効果が表れつつあることが分かる。

また吉田市長が就任1期目のほとんどを行財政改革に忙殺されたことは前述の通りだが、2期目の前半にまちづくり大学が始まり、後半に円卓会議が始まったのと軌を一にする

(大阪府)



1200本の桜が一齐に咲く狭山池の幻想的なライトアップ

また堤を築く際の工法は小枝を土の中に織り込んで積み上げる「敷葉工法」と呼ばれるもので、古代アジアではやった手法だという。狭山池よりも300年ほど前に築造された韓国・



南海鉄道高野線の土手下に残るレンガづくりの地下排水溝(明治30年代構築)も狭山池活用の記憶の一つ

自立と協働が「大阪狭山らしさ」の醸成過程で人間たちの担うパートだとしたら、地理環境的な意味で大阪狭山らしさをこれからさらに醸成していくと思われれるのは、狭山池をはじめとする市内140カ所以上にのぼるため池がつくる水風景だ。とりわけ狭山池の高度な歴史・文化性に対する世界文化遺産登録運動の動きは注目だ。

「西除川をせき止めてつくった狭山池は、

日本書紀や古事記にも書かれた日本最古のダム式ため池です。昔から古いため池であることは知られていましたが、昭和63年〜平成14年まで行われた大改修の際に、出土した『樋』を年代測定したところ、一番古いものは西暦616年に切り出されていることが分かりました(吉田市長)

金堤(キムジエ)市の碧骨堤(ピョッコルチエ)も敷葉工法のダム式ため池で、狭山池の世界文化遺産登録運動は、この韓国・金堤市の碧骨堤と共同で行われる予定だ。

(取材・文 遠藤 隆)



狭山池の龍神を意匠化した人気のマスコットキャラクター「さやりん」

かのように、行財政改革の質もまた変わってきていることが、市長のお話からも分かる。吉田市長が就任した平成15年4月の段階では、「14年度決算見込みは経常収支比率が99・2%、公債費比率が22・1%と財政の硬直化が進んでおり、財政調整基金を3億7000万円、公債費の償還に減債基金を4億500万円、それぞれ取り崩さざるを得ない状況」(吉田市長)だった。そのため、財政健全化フレームをまず策定し、自主財源の確保、受益者負担の適正化、施策の選択お

よび重点化により、経常収支比率の改善と財政調整基金などに依存しない財政構造に改善することを目標に、厳格な行財政改革に取り組んだ。

「職員の給与カットから、図書館や保育所などの民間委託の推進をはじめ、とにかく数値を落着かせる方策を矢継ぎ早に実施するとともに、細かい話ですが無料にしていた老人福祉センターの入浴代なども、受益者負担と公平性を保つ観点などから100円いただくことにしたり、考えの及ぶ限りの取り組みを行いました」(吉田市長)

こうした努力の結果、平成16年度から早くも決算額において、財政調整基金などに依存せず黒字決算に転じ、現在まで維持している。そのようなプロセスを日々の業務の中で経験するとともに、まちづくり大学を立ち上げ、円卓会議を設置し、市民とともに行政課題を改めて学び合い、文字通りの協働による地域活性化を体験し続けることによって、職員と市民の相互理解が進みつつあることは、既に述べた通りだ。そして改めて振り返ってみると、「市民と職員が市の課題を共有し、市民が起点のまちづくりに協働の汗を流し合うことも含めて、官民の人材育成と同時に大阪狭山市の行財政改革は推移してきた」(吉田市長)ということがわれわれ



大阪狭山市ブランドの「大野ぶどう」「さくら染め」「狭山シフォン」



にも理解できる。

新たな大阪狭山らしさの源泉は協働と狭山池

吉田市長は平成23年4月にスタートした3期目のマニフェストにおける「今後4年間のまちづくりに対する考え方」の第1に、「大阪狭山らしさを創出する自立と協働のまち」を掲げている。市民が起点のまちづくりはもはや当たり前前の認識であり、市民にも職員にも「さらにその先」を求めていることが分かる。